

## 【はじめに】

皆さま、こんにちは。城北支部広報部です。本号の特集は第2号で紹介しました北区中小企業経営診断協会（北経協）に続き、HOT NEWS 第2弾として活発に活動を行っています各区診断士会の中から板橋区中小企業診断士会の活動の一つをご紹介します。

## 【HOT NEWS ～案件に動くチーム（団体）～】

### 板橋区中小企業診断士会 の受託事業紹介

#### 板橋区産業実態調査を紹介します

板橋区中小企業診断士会では板橋区から産業実態調査を受託して、板橋区中小企業診断士会員が調査員となり、企業に直接訪問し、板橋区内の企業の抱える課題・意見・要望を聞き取ります。調査員は会長が承認して、板橋区並びに板橋区産業振興公社の説明会に参加した診断士が行っています。

この調査は、6年前にはじまり、今回で3回目になります。製造業2000社、その他1000社の調査を行います。城北支部所属する板橋区中小企業診断士を含めて、70名の調査員が9月から行っています。企業内診断士でも、休暇を利用するなどを行い実施できる範囲での参加が可能です。調査員は小規模企業の経営者と会って経営の実態を知ることができる、報酬が得られる、実務従事証明をもらえる、といった特典もあります。第一線で活躍するプロコンの先生、企業内診断士など、さまざまな先生が参加しています。この活動を紹介します。

#### 事務局責任者の岡田副会長について

事務局責任者は岡田資司先生です。6年前の第1回目の時、会長から事務局責任者を指名されました。理由は板橋区の経営相談員であり、区役所との関係性が深いとのことなのです。

会社組織のように事業所で毎日顔を合わせるわけではない診断士の世界でのコミュニケーションは全体会議かメールのみでおこない、自身の伝えたいことが各調査担当者にきちんと伝わったろうか？メールは開いてもらったのだろうか？文面の真意は伝わったろうか？こういった不安が岡田先生にあったそうです。前2回は無事終了して、大きな成果がありました。

今回は調査件数が前回の2000件から1.5倍の3000件になり、心配な面もありますが、順調に推移しているようです。

#### 担当調査員の取り組み

##### 【企業内診断士の取組】

調査に初参加した企業内診断士の例では、担当件数は13件であり、平日の昼休みなど会社の仕事の合間を縫って、電話連絡などで調査予定企業のアポをとり、半休を活用してアポが取れた事業所へ向かうというスタイルで行った。訪問先の貴重な時間を奪わないよう、スピーディーに質問を進めますが、話しはじめると丁寧に語ってくれる社長さんも多く、半日で4件の調査を終了できた。

##### 【ベテラン診断士の取組】

150件以上を担当するベテランの診断士の例では、半日に5件を目処にしている、廃業確認も含めると多い日で1日16件達成できる日もあった。調査開始から実質10日間で115件の調査を完了したそうです。スピードの秘訣は、「特に秘訣はなく、誠実に対応すること、無理強いしないこと」を挙げていました。

## 【調査で感じたこと】

- ・中小企業の多くは、いきなり社長さんの対応になります。それなりに大変苦労されている方が多く、説明を直ぐに理解し、丁寧に対応されることが多くあり、さすがだなと感心しました。
- ・板橋の町は坂や入り組んだ道が多く、目標の場所になかなかたどりつけないことが多くあります。携帯のGPSを頼りに目的地に着いた時は達成感を感じる。
- ・丸一日の調査は、かなりの距離を歩く。終わるとへとへとになりますが脚力がついて健康にはとてもいい。
- ・苦労は、セールスと間違えられた時。そんな時は板橋区実態調査の資料並びに調査員証を示して誠実な対応・丁寧な説明をして協力を得られることが多い。
- ・自宅兼事務所のような工場を見ることはあるが、どのような製品を作っていて、どのように経営しているかまで知ることができる機会となり、診断士としては貴重な経験が出来た。



上板橋駅 午前9:00



迷路のような板橋の街並み



同じ様な道を行ったり来たり



公園のベンチで一息

## 【板橋区中小企業診断士会青木会長より】

板橋区の産業実態調査は今回で3回目になります。調査結果に対して板橋区産業経済部、板橋区産業振興公社、東商板橋支部、板橋区産業連合会、法人会、自民党板橋総支部、公明党板橋支部、企業などから関心が高くなっています。周辺地域からの関心も高まり、去年は荒川区産業経済部から荒川区製造業実態調査の依頼がありました。更に今年は荒川区産業経済部から商業の実態調査依頼もあり、完了しています。今回の実態調査は原則として板橋区中小企業診断士会会員が行っていますが、所属は東京協会城北支部、城東支部、中央支部、城南支部、城西支部のメンバーからなっています。板橋区在住を中心として周辺地域の会員の皆様の尽力により、推進されていますので大変感謝しております。来年も各種の調査・イベントを実施しますのでご協力をよろしくお願い申し上げます。

板橋区中小企業診断士会 会長 青木弘文

## ●板橋区中小企業診断士会の紹介

城北支部創立55周年記念誌号（年末発行で現在作業中です）に掲載していますのでご覧ください。

## 【支部活動潜入レポート】能力開発部研修会（11月22日 北とびあにて）

11月22日（土）、能力開発推進部による第2回研修会が開催されました。今回は今年7月に卒業した城北プロコン塾1期生によるプレゼンコンペ。卒業生の中から5人が1人25分の持ち時間で発表を行い、参加された先生方が審査員として内容や発表の仕方などの項目別に点数を付けて合計点を競いました。今回は、石川先生、大山先生、岡先生、岡田先生、岡本先生が発表を行いました。プロコン塾の時よりも聴衆の数は多く、持ち時間も長く、ベテランの先生方も多く参加されており、卒業生たちの緊張は高まります。始まる前は「出来れば帰りたいよ～」などと言っておりました。しかし、いざ始まってみると途中、聴衆に質問を投げかけたり、笑いを交えるなど、どの先生もうまく発表を終えたように見えました。

このプレゼンの元ネタは、プロコン塾生が出版や講演など診断士としてお金を稼ぐためのツールを持つために、10か月間かけて作ったもの。最初は皆が「講演出来るテーマなんかないよ！」と不安を抱えながらのスタートでした。毎回、途中経過の全体発表の時は、古川前塾長から「それでお金稼げるの？」「良く見積もって60点だな」「この段階でこのレベルの完成度で卒業までに間に合うの？」など厳しい指摘を受けながらも、何とか1人あたり20ページ

のレポート集を完成させるに至りました。

全員の発表終了後、朝倉支部長より、「誰に向けた内容なのかを明確に」「自身の体験をベースにしたもので説得力をUPさせよう」「内容とともに、話し方も工夫が必要」など、厳しくも鋭い指摘が。また、5人の先生方が受け取った採点シートにも同様の指摘が多く書かれていたようです。

診断士の収入獲得手段に講演や出版が挙げられていますが、塾生達は「講演や20ページのレポートを書けるテーマが自分にあるのか?」「果たしてお金を稼げる程の専門性があるのか?」など、スタートから躓いていました。しかし、発表の場が与えられ、古川先生・講師の先生方・塾生同志で、あれこれ言い合うことで、何とか完成にまでこぎつけられました。ある先生は、「プロコン塾に入っていなければ、ずっと聞く側だったと思いますが、話す側になることや話すためのコンテンツを作る機会を与えてもらったのが一番の収穫」と言っていました。また、今回の研修会では専門領域も診断士歴もさまざまな先生方から自身の発表を聞いてもらい、採点・コメントまでしてもらえという機会は、塾生にとっては、苦しくも有益な時間だったようです。



大勢の審査員の先生



採点・評価用紙



先陣は石川先生



懇親会&表彰式

## 【今月の城北人】

蛇岩真一 先生 【連絡先】 [sin-hebiwa@com.home.ne.jp](mailto:sin-hebiwa@com.home.ne.jp)



### 【職歴・得意分野】

I T業界で20数年SEを経験し、現在はフィールド・イノベーション（業務の可視化～改革立案）を担当。

診断士としては、資格学校で中小企業診断士講座の講師を務める。

### 【支部活動】

城北支部 企業内診断士フォーラム所属。

今月は、野菜作りが趣味の蛇岩先生にその魅力を語ってもらいました。

### Q1 野菜作りをはじめたキッカケは？

北海道から東京に転勤してきた時、「自然にふれあうことが少なくなるなー」と思っていたのですが、練馬区にたくさん区民農園があることを知って、やってみようと思いはじめました。

### Q2 どんな野菜を？どんな作業を？

栽培している野菜は、春、夏、秋と季節ごとに10種類位育てているので、全部で30種類位作っています。土づくりから始まり、種蒔き、水やり、害虫駆除など、思っていたより大変ですが楽しい作業です。

### Q3 栽培の苦勞は？

収穫時期になると、毎日トウモロコシだったりキュウリだったり、食べ切るのが大変です。平日にも収穫しないと巨大化してしまうので、真夜中に泥棒のように収穫することもあるそうです。

### Q4 今年の自信作はありますか？

今年の自慢はロマネスコ。ただ、うまく育ったのに調理に失敗してしまい、少し落ち込んでしまいました。

収穫した野菜のほとんどは家で食べていますが、時々知り合いにお裾分けしています。最近は畑に遊びに来てくれる人も増えてきて、収穫体験を楽しんでもらっています。

### Q5 野菜作りの魅力は？

3年やっているのですが、1年目は芽が出なかったり、虫にやられたりと散々でした。ですが、経験を積むほどに自然とコツがわかってきて、今年は自己採点で70点、です。手をかけるほど良い野菜が採れる。これは嬉しいことで

す。簡単なようで奥が深いことが大きな魅力です。

以下の写真は、蛇岩先生が育てた自慢の野菜たちです。



傑作のロマネスコ



農場入口



畑の様子



とれたての野菜たち

## 城北プロコン塾より ～「塾生のひとり言」～ 城北支部 小坪 宏規先生 ([ko2bc@tcn-catv.ne.jp](mailto:ko2bc@tcn-catv.ne.jp))



私は、エネルギー企業に勤務する登録1年目の診断士です。城北支部に入り、社外の新たな活動場所を得てワクワクしております。よろしくお願いたします。業務経験が特定の事業分野に限られたものであるため、さまざまなお客さまに対してアピールできるような得意分野や専門知識が今はございません。15年前まで、地理情報やモバイル技術を利用した業務システムの開発をしていたので、情報通信分野の基礎知識はございます。しかし、Internet や携帯電話が広く使われるようになった21世紀は、設備管理や営業支援を担当する部門の企画スタッフとして現在に至るため、クラウドやビッグデータなどと次々進化するICT技術について精通しているとは言えなくなりました。“得意なこと”を取って挙げると、①人の話をよく聞き質問すること（一時期質問魔と呼ばれて反省し、効率的な質問も心掛けています）、②ビジネスモデルや業務フローなどのさまざまな「仕組み（システム）」について絵にできること、③難しい専門概念・用語について、専門家の話を聞いて要点を理解し、門外漢の方にも分かるように翻訳して説明できることでしょうか（元NHKの池上彰さんには敵いませんが...）。プロコン塾には、診断士としてのスキルの核を作るべく門を叩きました。まず、財務会計・経営分析力と海外展開関連知識を強化したいと思います。海外業務経験なしですが、国際部の活動に関心があります。プライベートでは、シングルモルト・ウイスキーを愛し、糖質制限ダイエットにいそしむ、二児の父です。ロボット技術の進展に注目しており、市販ロボット・キットの組み立てに息子と挑戦しています。顔を見かけたら、お気軽にお声がけください。

### 【あとがき】 言おうと思ったけど言えなかったこと (汗)

ある研究会の企画で、朝倉支部長を前に、診断士の活動全般について「要望・意見、言いたいことを何でも言ってみよう。」という企画がありました。硬いものから軟らかいものまでさまざまな意見が出ました。「平日は会社の仕事があるから、土日を中心にイベントを増やしてほしい」「研究会等の開始時をもっと遅くしてほしい」「婚活イベントをやってほしい」「会員の、どんな専門分野やあり、どういう活動をしているのかのデータベースが欲しい」など。中でも多数を占めたのが、「仕事等との兼ね合いで平日ではなく、休日に活動がしたい！」というもの。筆者は、飲食業など多くのサービス業同様、土日が繁忙なことが多く、なかなか休めず「平日に活動したい」派。ただ、その時の部屋全体の雰囲気は「土日に活動だ！」といった雰囲気だった、時間も終了の時間だった、ことから発言の機会が回ってこず、妙な少数意見を言わずに済みました。でも、筆者のような方（特にサービス業の方）もいらっしゃるのでは？と思う今日この頃。

## 【本誌に関する皆さまのご意見、ご要望をお待ちしております】

---

### ①皆さまが**お持ちの“ネタ”**を提供してください

- ・研究会・区会の活動を紹介したい、または、ご自身のセミナーを紹介したい。⇒広報部員が潜入します
- ・ご自身の特技を紹介したい。支部内の方と交流したい。⇒「今月の城北人」のコーナーで紹介します
- ・診断士としてのノウハウを紹介したいなど ⇒特集記事化します。

### ②皆さまが**知りたいことを教えて下さい**

- ・企業内診断士の活動状況が知りたい。
- ・独立するには、どうしたらいいかを知りたい。

⇒各種 特集を組んで記事を作成します。

### ③**読者としての（批判も含め）感想をお聞かせください**

- ・批判的な内容もお願いします。今後の改善に活用させていただきます。

### ④**本誌編集スタッフ募集中**

- ・「隙間時間にちょっと」「アイデアを出すだけ」でも構いません。

問い合わせ先 城北支部広報部： [johoku.kouhou@gmail.com](mailto:johoku.kouhou@gmail.com) まで よろしくお願ひ致します。

JOHOKU SHINDAN 誌 ～第3号 城北支部HOT NEWS～

2014年12月9日発行

発行者：城北支部長 朝倉久男

編集者：城北支部 広報部